日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 鐘ヶ江正志 発行所 日本高齢者運動連絡会 〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号 Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com 発行: 毎月1日・15日 2014年9月15日 No.283



第28回日本高齢者大会 in 富山=9月13日 富山市総合体育館

「第 28 回日本高齢者大会 in 富山」に 5200 人 熱気あふれる想い!

第28回日本高齢者大会中央·富山実行委員会

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」「憲法をくらしにいかし みんなが輝く社会 平和な日本を」をテーマに第28回日本高齢者大会in富山は、9月12・13日の両日、富山大学と富山市総合体育館で開かれました。

1日目の12日は、40の学習講座・分科会・シンポジウム・移動分科会・富山学・交流と多彩に繰り広げられました。

 \triangle

全体会は13日午前中、富山市総合体育館で。この2日間で延べ5200人が参加しました。

オープニングは鵜坂鵜飼太鼓で活気溢れる歓迎の演奏でした。

司会は、出野孝道さんと富山県新婦人・土肥明美さん。開会宣言に続き、歓迎のあいさつを大野

孝明・富山県実行委員長が、主催者あいさつを城田尚彦・中央実行委員長が。来賓からのあいさつと、紹介されたメッセージが歓迎と連帯を表明。ついで、参加者交流で、参加者がブロックごとに紹介されました。皆さん元気に手を振ってアピールです。

このあと、鐘ヶ江・中央事務局長から基調報告。 そして、記念講演をエッセイストで社会運動家の 池田香代子さんが、「嘘を見抜く力を身につけよう!」。

つづいて「大会カンパ」の訴えを、新日本婦人 の会・山元美奈子さん。

地域報告は、福島県高齢者運動連絡会・橋本幸伸 さんと沖縄県高齢者運動連絡会・内村敏雄さんか ら。 文化行事は、伝統を受け継ぐ、八尾高校郷土芸能部の皆さんによる「越中おわら節」。最後は、 会場も一緒に輪になって踊りました。

大会もいよいよ終盤。大会決議案を、富山市北 地域実行委員会・田中桂子さん、大会アピール案 を高岡市地域実行委員会・金平英子さんから、そ れぞれ拍手で採択されました。

最後に、大会旗が富山県実行委員会から次期開催地の和歌山県高齢者運動連絡会に引き継がれ、 大森米次郎・和歌山県高齢者運動連絡会会長が決意表明。 壇上の和歌山県の皆さんも「つれもて いこら」(和歌山の言葉で、『誘いあって・繋がって、いきましょう・取り組みましょう』の意味だそうです)の横断幕を掲げて来年の歓迎を表明。

米谷寛治・富山県副実行委員長の閉会挨拶で大会を閉じました。

 \Diamond

【ご来賓】

☆富山市長代理

富山市社会福祉保健部長 宮田 宣忠 様 ☆富山市社会福祉協議会

事務局長 碓井 昭夫様

☆富山県生活協同組合連合会

会長 清水 文清様

☆中央社会保障推進協議会

事務局長 山口 一秀様

【註】各政党に案内状を差し上げました。

大会アピール

わたしたちは高齢者です。 戦前・戦中・戦後の困難な日々を ともに励ましあって生きてきました。 もう二度と戦争のない社会をねがって 日本国憲法を根づかせながら働いてきました。 そのわたしたちに感謝の言葉もなく 政府は年金・医療・介護など老後保障を改悪し、 主権者である国民に相談もなく 特定秘密保護法を強行したり 集団的自衛権行使容認を閣議決定したり 新しい"戦前"づくりを画策しています。 他方では武器の輸出自由化で"死の商人"となり 福島原発の収束もないまま原発を売り込み 日本列島には米軍基地がはびこり オスプレイが我がもの顔で飛び回る有様です。 全国の高齢者と家族のみなさん! 今こそおたがいの人生を寄せあって心一つに 平和と福祉と人権を地域からひろげましょう! 愛する子どもたち孫たちの明日のために!

> 2014年 9月13日 第28回日本高齢者大会

【メッセージ】

☆上市町長 伊東 尚志様

☆全国労働組合連合会

議長 小田川 義和様

☆第60回日本母親大会

実行委員会様

☆日本共産党参議院議員

☆日本共産党衆議院議員

赤嶺 政賢様 笠井 克様 塩川 哲也様 高橋千鶴子様

第28回日本高齢者大会決議

安倍首相は、憲法改悪を「私の歴史的使命」 といって、国民の命より「戦争する国づくり」を求 めています。靖国参拝から特定機密保護法をめぐ る強行姿勢、集団的自衛権行使容認に至っては「私 が最高責任者だ」と自らの一存で憲法解釈できる かのような発言をし、「閣議決定」を強行しました。

世論調査(朝日新聞)では、行使容認で戦争に 巻き込まれる不安88%、行使反対63%と国民 の多数は反対です。安倍内閣の支持率は急落し、 不支持率は40%台に上昇しています。

辺野古への移設には73.6%が反対し、県民の声を聞く知事の誕生が、新基地建設を中止させ安倍政権への打撃になります。

東日本大震災から3年半経過したにもかかわらず 復旧・復興は進まず「住民の不安」が一層強まる なかで震災関連死は増える一方で、その9割は6 6歳以上の高齢者です。一日も早く「被災者の安心 できる復興」に取りくむべきです。 東電福島原発事故によっていまだに13万5千人の人が避難生活を強いられ、そのうち4万人の人が県外へ避難しています。事故から3年半以上経っても、自宅へ戻れる保障はなく、原発事故の究明もされず、汚染水処理、廃炉の対策も立たない中での再稼動、海外輸出は論外です。5月21日、福井地裁は大飯原発の差し止め訴訟で、再稼動を認めない画期的な判決を言い渡しました。一日も早く原発事故を収束し、原発をやめて、再生可能なエネルギー政策への転換を決断すべきです。

医療介護総合法は、さらなる消費税増税と国の公的責任を放棄し、共助・自助を国民に押し付けました。2014年度骨太方針は、高齢者が増えても医療や介護のサービスの徹底削減を打ち出しています。大幅な病床削減によって「医療難民」、要支援者の介護サービスの切り捨てなどによる「介護難民」を国の政策によってつくり出るうと

「介護難民」を国の政策によってつくり出そうとしています。介護保険料は2000年の制度スタートから上がり続け、国の負担やサービスの給付は下がる一方です。年金は13年度から1.7%の切り下げが実施され、さらに「マクロ経済スライド」の発動によって毎年1%の支給削減をねらっています。高齢者の唯一の命綱である年金の大幅な切下げは絶対反対です。

いま、原発の再稼動や特定機密保護法に反対する声は地方議会での決議やデモ、集会となって、 東京ばかりか地方都市まで急速に広がり、たくさんの人たちが立ち上がっています。

圧倒的な自公政権の中であきらめることなく、これにストップをかけるのは経験と分別の豊かな高齢者です。安倍政権の無謀な政治に反対するあらゆる人たちと手を組んで、安倍政権を追い詰め退陣をせまる輪を広げましょう。以上決議します。

大会速報記事より、講座・分科会の様子を紹介します。

第1教室

憲法の生き証人

「現代日本の社会保障をめぐる3つの動き」

特に特徴のあったのは憲法 9 条プラス 25 条の「二つの解釈改憲」に襲いかかってる安倍政権。 生存権保障のための社会保障を「共助としての社会保障」に切り換え、憲法 25 条の骨抜きに向かっている。税・社会保障一体改革を継承し消費税は生存権から導き出される最低生活費非課税の原則を侵し、国民の生きる権利を困難にしている。 高齢者パワーこそが必要であり、社会保障再生に 憲法の生き証人である全高齢者の力が求められて いる。



第3教室

安心して暮らせるまち

156人の会場に180人超える参加者。お断りせざるをえない方もありました。講師の田中勝己さんは、木曽町の合併で全国に誇る2つの特徴を報告。「徹底した住民が主人公のまちつくり」と「どこにいても安心して暮らせる地域つくり」です。「どこにいても安心して暮らせる地域つくり」の中心問題は交通対策でした。国土交通省の総合プログラムを活用して赤字分の80%を省が応援することで財政的な課題を克服。自分のまちにピッタリの交通システムを作ってください、と結ばれました。



第4教室

東日本大震災から4年

東日本大震災から3年半が経ち、早くも震災の記憶の風化が進んでいる。記者の被災者に心を寄せる取材を通して、現場の惨状は我々の想像を遙かに超えていることを思い知らされた。その後の復興は、仮設住宅の建設の計画の立ち遅れ、社会保障の退行など、被災者が更に弱者に追い詰められる状況を知った。いかにアベノミクスが、本来の国の復興と乖離しているのか、国の優先順位が問われる学習講座であった。そして、福島県から

の参加者の声は耳から離れない。

第7教室

集団的自衛権の真実

安部政権が憲法解釈で集団的自衛権を容認し、 実施しようと躍起になっている状況を反映し、3 百人を超える参加者が真剣な表情で聞き入っていた。パワーポイントや DVD を使い、沖縄における中国との戦争を想定した基地作り、軍備の配備計画などが分かりやすく報告された。日本が戦争する国へ向かう道筋を断つべく、会場全体が一つとなった。

「打倒!安倍政権!!」



第1分科会

今風 井戸端会議

分科会の開始前からうたごえが始まり会場が和み、気楽に発言が出て来た。参加者の年代層を問われ84才が最高齢、若い人では26才、27才の青年が参加し、若者に支えられた高齢者集会分科会となった。

講師からの情勢報告には、年を重ねてても輝いて生きることが、今、大切で激動の情勢に命がけで怒り、高齢者が主役で大運動の展開が重要と語られた。会場からは次々と発言があり熱意伝わる分科会となった。



第3分科会

高齢者の生きがい

参加者47人。講師の廣木さんからは自分の生い立ち、「日本に生まれてよかったと言える平和な国を未来永劫引き継ごう」と力強いお話がありました。太極拳で全員が体をほぐして、後半は参加者が主人公。17県の参加者から「それぞれの働きがい・生きがい」の報告が。福井からは原発反対基地反対の署名が「働きがい」と。福島・宮城など被災地からの参加者からも発言がありました。



第9分科会

認知症予防・笑ヨガ

ホッホッハハハ・・・イイゾイイゾ・・・イェーイ!こんなに笑いと活気がある分科会が、かつてあったでしょうか?

染谷氏の声と手振り身振りにあわせて、笑いヨガを体験した約150人の参加者は、笑顔と活気にあふれていました。また、シルバーリハビリの「いつでも・どこでも・誰でも・一人でも」出来る体操には全員なるほど頷きながらの体験実習。

健康で長生き、認知症予防、シルバーパワー全開 の分科会でした。



第10分科会

いのちとことば

最後まで自分らしく

会場は通路に椅子を置いても入りきれないほどの多くの参加者が詰めかけた。ユーモアを交えた温かな話口調で、心身の治癒力、回復力となっていくことばの持つ力について講演された。詩や俳句、短歌

などの癒しの効果の説明に参加者が大きくうなづいていた。また自分らしい最後を迎えるためのライフデザインノートの活用は、今ある生をより充実したものへ誘う等の説明に、参加者の共感があった。



第 11 分科会 認知症を支える

「平和でなければ介護はできない」と講師の講演がしめられ、休憩に入り、会場では「笑いヨガ」が行われ、参加者全員で大笑いを楽しみました。

キーボード演奏があったり一杯百円のコーヒー 販売があって和やかな分科会となりました。

休憩が終わって、会場で7つのグループに分かれて進行係、記録係、報告係を決めて討論に入りました。

それぞれの体験を聞いて大笑いをするグループ、 真剣なまなざしもあり、問題の深刻さが伝わるグ ループもありました。



第 12 分科会 まちづくり

参加人数は満席の85人。地域でいのちをつなぎあい、自己責任に対して、支えあい、助け合い、愛し合う地域づくりを住民参加で取り組んでいる、富山と石川の2つの活動が報告されました。交流会では愛知年金者組合の「おたすけまん」活動、尼崎医療生協等からの報告もありました。制度改悪が進む中、私たちの活動は「行政のバンソウコウ」にしてはならないが、人権を守る地域でのまちづくりは待ったなしです。



第 13 分科会

森を元気に 里山の保全

富山市ファミリーパークは「故郷の動物を故郷の人に」コンセプトに満30年を迎えた。そしてこれから、丘陵全体の一体的活用を目指す里山体験ゾーンとして本格的な整備にかかる。里山の多様性を知り、動物と人との触れ合いを体験することによる動物園、また、他県の参加者から孫とお出かけする動物園構想も参加者から紹介され、今までの観念を覆す動物園の未来が見える分科会であった。



第 16 分科会 ひとりぼっちをなくす

4人のシンポジストから各地での様々な経験が 報告された。鳥取医療生協が取り組んでいる複数 の市町が連携して高齢者の見守りに取り組んでい る経験は、ボヤの発見、早朝田んぼに落ちた車の 発見など実際に人命救助につながっていた。その 他、住民の要望から法人から立ち上げ事業展開す る報告、たまり場づくりなど様々な角度からの報 告があり、参加者は熱心に聞き入っていた。



い声が会場を包んでいました。下階の聞き酒の民 謡に負けない、元気な高齢者パワーを感じられた 熱い熱い会場となりました。



移動分科会

富岩運河と北前船

天気は最高!!皆さん初めての水上ライン。救命胴衣をつけ、1時間の船旅へ。ガイドさんの説明にアッチコッチと目をきらきら輝かせておられ



ました。特に中島閘門での水位差2.5mの運河体験には身を乗り出して、歓声の声が上がりました。船を下りて、展望台・町並み散策・森家見学と盛りだくさんな内容でした。時間が足りなく、もう一度来たいとの感想も多く聞かれました。



夜の企画

うたごえ

参加者は180人を越えました。

歌い継がれている歌、懐かしい歌、最近の歌、 高齢者大会のパワーが終結したような力強く美し

全体会



富山市社会福祉保健部長•宮田宣忠様



中央社会保障推進協議会 • 山口一秀様



記念講演 池田香代子さん



富山県実行委員会の皆さん、要員の皆さん、 本当にお疲れさまでした



鵜坂鵜飼太鼓



大会旗が富山県実行委員会より和歌山県へ バトンタッチされました



越中おわら節=八尾高校芸能部の皆さん



和歌山県高齢者運動連絡会の皆さん



「私の青春」

中川 春子

1923 年生れの私の青春は、日支事変・太平洋戦争と実に暗いものでした。

昭和十五年の春、近畿日本鉄道に入社しました。 勤務は二交代制で、24 時間勤務の宇治山田駅勤務。 出勤した朝は仕事の前に朝礼がありまして、駅長 室はじめ各部署の約 20 名程が集って、駅長のその 日の伝達のあと「軍人勅論」を朗読しました。「軍 人でもないのに」と少女の私には一寸意外でしたが……仕事は出札掛でした。先輩の男子の方二名 と私と同時入社の同姓の中川佳子さんとの四人で した。一日の最終列車が出てから、出札口の窓を しめ、日報にかかります。食事は交替して、窓口 の空いている時にとりました。

私達が出札室に入る前まで居た方が、列車区へ行かれ車掌になられた方がありました。中村さんと云う方で、勤務の空いている時間には時々出札へ来られました。明るい方で新米の私達に優しく声をかけて下さいました。少女の私は、その方の来られる日を待ち遠しく思ったり、たまたま往き帰りの列車でその方の車掌姿に出会いますと、それだけで嬉しくなりました。少女の初恋とまでいかないうちに、間もなくその方に召集令状が来ました。あわただしく出征されました。私も先輩の方々と一緒に出征される中村さんを見送りに行きまし

た。が、これが最後の別れになるとは想像もして おりませんでした。日支事変から太平洋戦争に入 って間もなく中支で戦死されたのことでした。私 のような小娘でなく、きっと誓い合った方も居ら れたでしょうに。言葉に出来ない悔しい思いでし た。

昭和二十年に入り配給制の食品もとぼしくなってきました。私達の職場でも、みんな非番の日は田舎の方へ買出しに行くようになりました。そんな中、私の家では母が腎臓を病み「水分をとるよう、西瓜など食べさせるよう」言われましたが、八百屋にも「こんな時や誰も西瓜なんか作ってえへん」と言われる始末。

"腎臓病む母にひと切れの西瓜なく 昭和十九年の暗き夏の日"

休日には、田舎の方へお米を分けてほしいとよく 行きました。その頃は物を持ってくるように言われ、十九の厄年に作った一張羅の着物や帯を持っ てお米とかえてもらいました。

細くなった母は「すまんなあ」をくり返し涙を流しました。その母も昭和十九年十月にひっそりと亡くなりました。空襲警報がぼつぼつ入ってくるようになり、母が知らずに亡くなったことにほっとしていました。

ありがとうございました。

「第28回日本高齢者大会 in 富山」にご参加くださった皆さま、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

お知らせ

第29回日本高齢者大会は「和歌山」 9月15日(火)~9月16日(水)を予定しています。

